

# 沈黙の聖戦

2004(平成16)年10月31日鑑賞(ホクテンザ)



監督&アクション監督：チン・シウトン／出演＝スティーヴン・セガール／バイロン・マン／モニカ・ロウ／トム・ウー／ヴィンセント・リオッタ／サラ・マルクル・レーン／エリド・マックティーン（アートレポート、ギャガ・コミュニケーションズ配給／2003年アメリカ映画／91分）

……ご存知スティーヴン・セガール主演の「沈黙シリーズ」最新作。舞台はタイ。誘拐された愛娘の救出に向かったセガールとヤミ社会を牛耳る組織との闘いは圧巻。ややこしいストーリーは不要。ただただ芸術的ともいえるセガールの格闘技を楽しもう！

## セガールの「沈黙シリーズ」とは？

スティーヴン・セガール主演の「沈黙シリーズ」は今でこそ有名だが、その出発となったのは1992年の『沈黙の戦艦』。その後、『沈黙の要塞』（94年）、『沈黙の断崖』（97年）、『沈黙の陰謀』（98年）、『沈黙のテロリスト』（01年）、『沈黙の標的』（03年）と次々と公開され、セガールのアクションスターとしての地位は不動のものとなっていった。もちろん、その合間（？）にもセガールは、『暴走特急』（95年）や『DENGKEI／電撃』（01年）等にも出演しているが、今ではセガールといえば「沈黙シリーズ」と言われるまでになっている。果たしてそれがいいことかどうかは微妙だが……。

私もこのシリーズのうち何作かは観ているが、正直どれがどれだか今ではよく覚えていない。だってこのシリーズについては、ストーリーは二の次であり関心がなく、要するに激しいアクションを楽しめばいいのだから……？

## それにしてもすごい肉体

セガールは1951年生まれ、柔道、剣道、合気道、空手等何でもござれのホン

モノの格闘家(?)。映画でみせる技は空手的なものが多いが、今回は舞台が「タイ」だから、ムエタイ的な動きも……?

格闘技で勝つためにはもちろん技も重要だが、K-1やPRIDEを見ればよくわかるように、「体重」が重要な要素。いくら技があっても、軽量級は所詮重量級には勝てないのは当然。

そういう観点からこのセガールのすばらしい肉体をみると、十分チャンピオンの価値ありだが……?

## 単純なストーリーでオーケー!

この映画でセガールが演ずるのは、タイで仕事をしていた元CIAの捜査官ジェイク。

今はタイを離れているが、上院議員の娘サラ(エリド・マックイーン)たちとタイ旅行を楽しんでいた愛娘のジェシカ(サラ・マルクル・レーン)が誘拐され人質となったため、ジェイクがこれを救出するために活躍するというのが基本的ストーリー。

ジェイクに協力するのは、CIA時代の相棒のスティ(バイロン・マン)と現地のナイトクラブで助けてやったホステスのルル(モニカ・ロウ)など。

アメリカのCIAも誘拐犯グループの壊滅に全力をあげて臨もうとしていたが、それを待っていたのではジェシカらの生命に危険が……。そこで単身タイへ乗り込んでいくジェイク。

ジェシカを誘拐したのはイスラム過激派グループのアブ・カラフだったが、タイに乗り込んだジェイクは、ヤミ社会を牛耳る武器商人ザディールや裏社会の実権を握るジャンタパン将軍(トム・ウー)らの存在を調べあげ、これに対して敢然と闘いを挑んでいく。そして……。

こんな単純なストーリーだが、セガール映画はこれで十分……。

## セガールはアクションに徹した方が……

セガールのアクションはたしかにカッコよくて迫力があり、楽しいもの。ジャンタパン将軍との「対決」においても、中軽量級のジャンタパン将軍よりも、重

量級のセガールの方が有利なことは明らか。

もっとも、K-1で敗北をくり返している曙のように、動作が鈍く<sup>スタミナ</sup>持続力に弱点があれば別だが、セガールはあらゆる点でパーフェクト……？

したがってセガール映画ではできるだけワイヤー・アクションを使用せず、生身の対決を望みたいもの。

ところがこの映画では、ハイライトとなる2人の対決シーンにおいて、ジャンタパン将軍が弓で射た矢を、セガールのピストルの弾が打ち砕くというシーンがある。

しかしこんなバカなことができるはずはない！

さらにこの2人が対決している間、何十人というマシンガンをもったジャンタパン将軍の部下を相手に、スンティが1人で2人の人質を守りながらの銃撃戦を展開し、敵をすべて撃ち殺してしまうという離れ業……？

もっとも、敵をすべて片づけた後はスンティもニッコリと笑って息絶えるのだが、これもあまりに現実離れしすぎ……？

やはりセガールは、ワイヤー・アクションなしの肉弾戦(?)が1番よく似合うと思うのだが……。

2004(平成16)年11月2日記

#### ミニコラム

### 魔娑斗 VS 神の子 KID 対決は？

2004年の大みそか、紅白歌合戦の視聴率は遂に40%を切った。その最大の原因は、大みそか恒例となった民放によるK-1やPRIDEの格闘技戦実況中継の面白さ。中でもK-1中量級の魔娑斗と神の子KIDこと山本KID徳郁との対決は注目を集め、瞬間最高視聴率は何と31.6%。そのスピードと迫力は紅白の比ではない。

結果は魔娑斗の判定勝ちとなったが、「もしも第1ラウンドでの急所蹴りのアクシデントがなかったら……」と思わせるに十分な試合。

1月9日(日)の「サンデー・ジャポン」はこの魔娑斗を生出演させたが、そのさわやかな魅力にあらためてビックリ。今年の更なる活躍に期待しよう。